

令和4年度 都市局所管 事業再評価

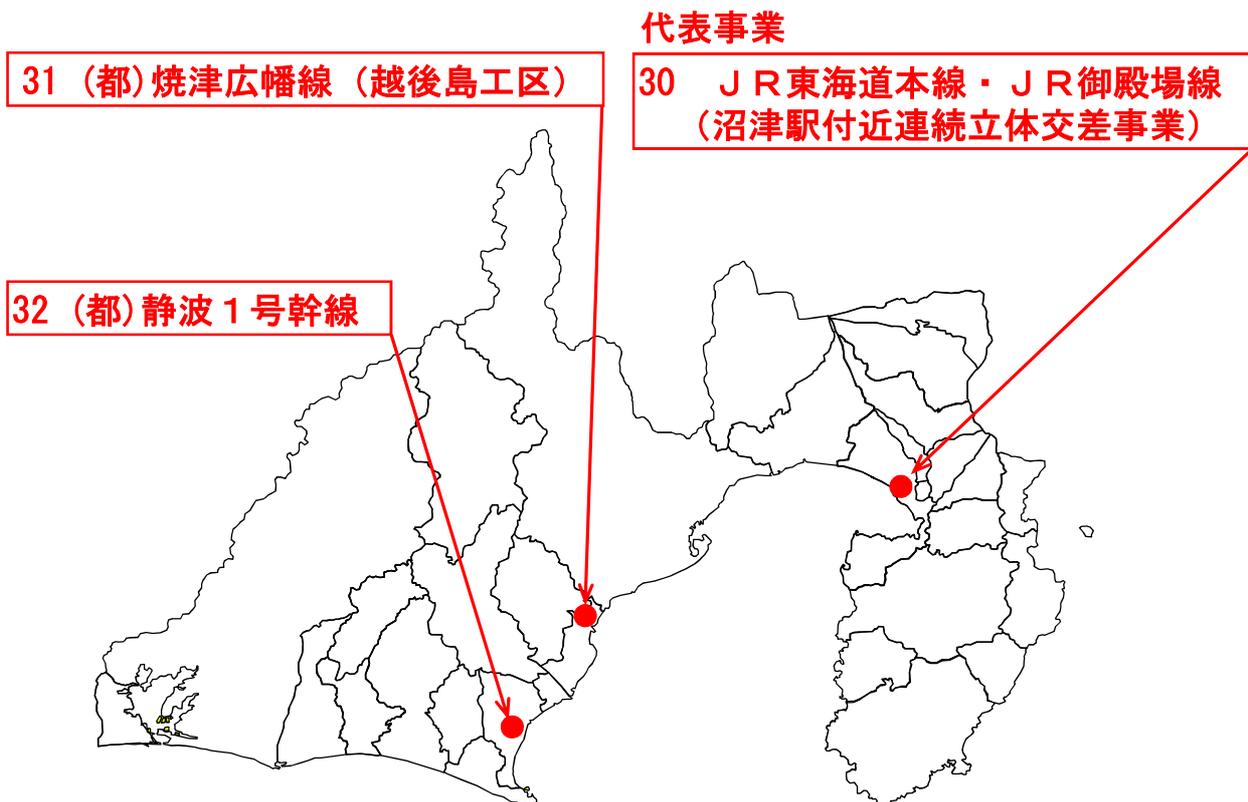
都市局：3事業

| 番号 | 事業名 | 箇所名 | 代表事業 |
|----|--------|---|------|
| 30 | 街路整備事業 | <small>とうかいどうほんせん</small> JR東海道本線・JR御殿場線 <small>ぬまづえき ふきん れんぞくりたいこうさじぎょう</small> (沼津駅付近連続立体交差事業) | ○ |
| 31 | 街路整備事業 | <small>やいづひろはたせん</small> <small>えちごじまこうく</small> 都市計画道路 焼津広幡線 (越後島工区) | |
| 32 | 街路整備事業 | <small>しずなみ1ごうかんせん</small> 都市計画道路 静波1号幹線 | |

交通基盤部 都市局 街路整備課

1

都市局 事業再評価 事業箇所



2

令和4年度

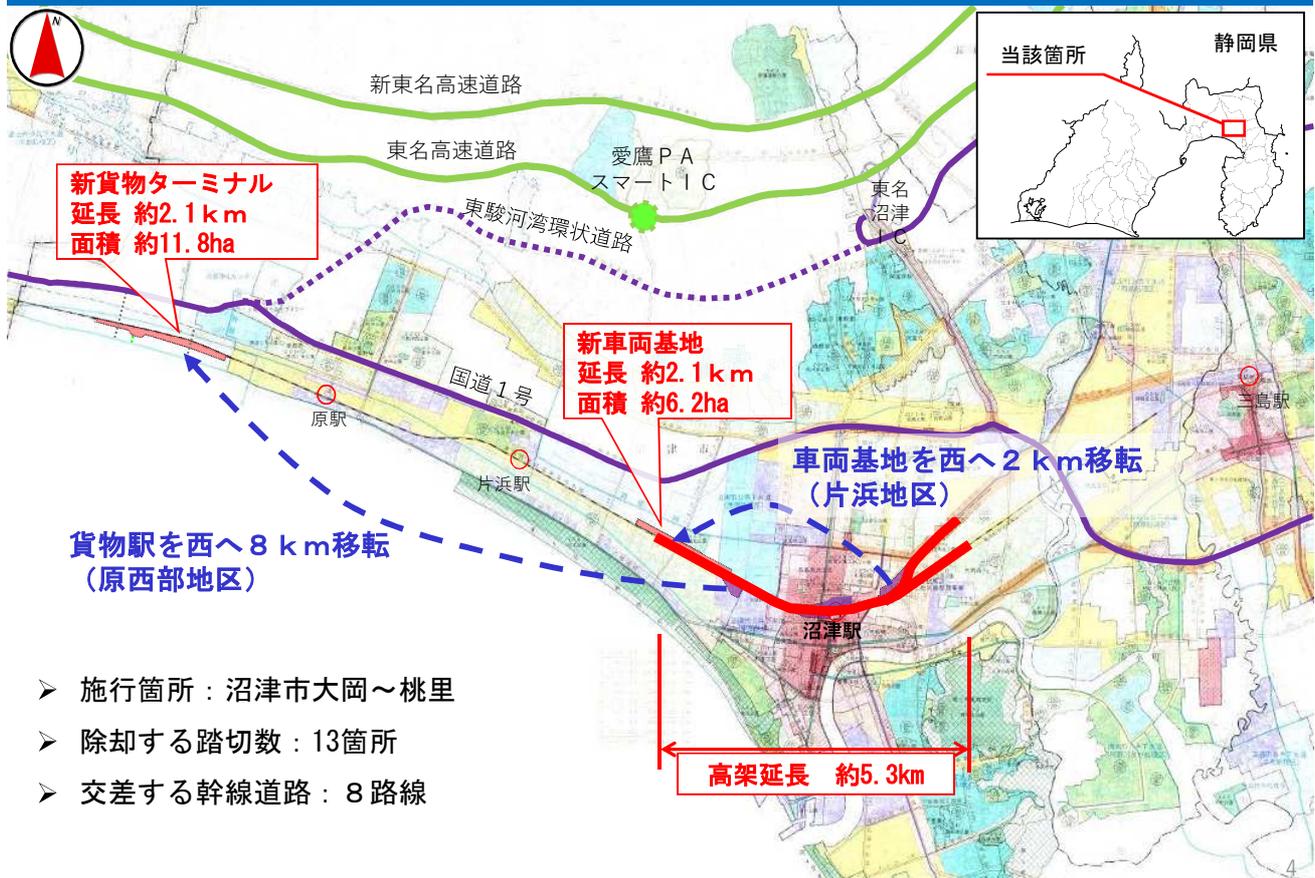
JR東海道本線・JR御殿場線
(沼津駅付近連続立体交差事業)

事業再評価

静岡県 交通基盤部 都市局 街路整備課

3

事業概要



平面図・縦断面図



5

沼津駅周辺の現状と課題

慢性的な交通混雑



線形不良・高さ制限による交通事故(平成29年度以降5回)



狭い歩道と自転車の押し歩き



豪雨による冠水による通行止(平成29年度以降5回)



沼津駅周辺総合整備事業



7

社会情勢の変化

コンパクト+ネットワークのまちづくり

- 沼津市立地適正化計画の策定（H31.4月公表）
 - ・沼津駅周辺：都市拠点（都市機能誘導区域）
- 沼津市地域公共交通計画（R2.3月策定・R4.2月改定）
- 沼津市中心市街地まちづくり戦略（R2.3月策定）
 - ・ヒト中心の公共空間の創出
 - ・鉄道跡地（車両基地・貨物駅）への都市機能の誘導
 - ・中心市街地にふさわしい都市型住宅の立地促進



沼津市中心市街地まちづくり戦略
（沼津駅南口駅前広場のイメージ）



まちづくりの活性化への取組（道路空間利用社会実験R4.4月） 8

事業の進捗状況

- 事業費ベースの事業進捗率 : 6.4%
- 高架本体の用地取得率 : 約89.5% (前回:約87.1%)
- 貨物駅移転先
 - ・ 貨物移転先の用地取得率 : 100% (R3.2月完了)
 - ・ 工事着手に向けた鉄道事業者による詳細設計 (R3~R4)
 - ・ 沼津市が造成工事に着手 (R4.1月)



新貨物ターミナル造成工事に着手 (R4.1月~)



新貨物ターミナル調整池工事の状況

9

事業の進捗状況

- 高架区間
 - ・ 用地取得、埋蔵文化財調査、調査設計等



高圧鉄塔・架空線の撤去



沼津駅付近の埋文調査

- 鉄道事業者との工事着手に向けた協議の実施
- 市民に向けた情報発信やまちかどトークの実施



まちかどトーク (R4.4月) の状況

H29~R4.4月
まちかどトーク(31回)意見
継続 : 797 (90%)
見直し: 36 (4%)
中止 : 56 (6%)
計889件

10

前回再評価との比較

| | 前回 (R3) | 今回 (R4) | 主な変更理由 |
|--------|---------|---------------------|--|
| ①全体事業費 | 787億円 | 1,034億円 (+247億円) | <ul style="list-style-type: none"> ・当初計画時以降の労務費・工事費等の上昇による事業費の増加 ・鉄道施設の基準（耐震、安全等）の改正による、施設工事費の増加 |

労務費・工事費等の上昇（増額：+179億円）

- ・当初計画 (H18) から変更計画 (R4) までの物価上昇（建設工事デフレーターは約1.24倍に上昇）

耐震基準・安全基準等の改正による工事費増加（増額：+95億円）

- ・鉄道構造物等設計標準（基礎・耐震）の改定により、高架構造物の躯体が増大した
- ・近年の列車脱線事故を受け、沼津駅に自動列車停止装置が設置された

仮設計画等施工方法の見直しによる工事費増加（増額：+14億円）

- ・工事中の仮設踏切、仮設エレベーター等、仮設計画の精査

コスト縮減（減額：-41億円）

- ・新車両基地・新貨物ターミナルの施設規模の見直し
- ・工事ヤードの見直し（借地料、ヤード整備費の縮減）

11

前回再評価との比較

| | 前回 (R3) | 今回 (R4) | 主な変更理由 |
|-------|---------|------------------|--------------------|
| ②計画期間 | H15～R16 | H15～R23 (+7年) | ・施工計画の精査による工事期間の増加 |

| | 前回 | 今回 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11 | R12 | R13～21 | R22 | R23 |
|------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|--------|-----|-----|
| 用地補償・調査設計等 | → | → | → | → | → | → | → | → | → | → | → | → | → | → | → |
| 新貨物ターミナル整備 | → | → | → | → | → | → | → | → | → | → | → | → | → | → | → |
| 新車両基地整備 | → | → | → | → | → | → | → | → | → | → | → | → | → | → | → |
| 高架本体整備 | → | → | → | → | → | → | → | → | → | → | → | → | → | → | → |

鉄道高架に切換
交差道路供用開始

12

事業投資効果

費用便益比 (B/C) = 1.10 (1.15)

EIRR=4.3%

$$\frac{\text{走行時間短縮便益} + \text{走行経費減少便益} + \text{交通事故減少便益}}{\text{総費用}}$$

総便益 (B) の現在価値 1,056.5億円

- ・ 移動時間短縮便益 982.0億円
 (自動車移動時間短縮便益 + 歩行者・自転車の踏切待ち時間解消
 + 歩行者・自転車の既設ガードへの迂回時間短縮)
- ・ 走行経費減少便益 59.3億円
- ・ 交通事故減少便益 15.2億円
 (自動車交通事故減少便益 + 踏切・ガード事故の解消便益)

総費用 (C) の現在価値 959.0億円

- ・ 建設投資額(連続立体交差事業+関連道路整備) 961.7億円
- ・ 維持管理費 1.4億円
- ・ 用地残存価値 4.0億円

・ 総便益及び総費用の合計は、表示桁数の関係により計算値と一致しない

13

その他の事業効果

緊急車両の通行の円滑化



歩行者・自転車の利便性の向上



14

その他の事業効果

高架下空間の有効活用



高架下利用イメージ



高架下(例) 商業施設
(秋葉原～御徒町駅)



高架下(例)
図書館(岐阜駅)

駅利用者の利便性の向上



沼津駅南口改札口



沼津駅コンコース 将来イメージ

15

その他の事業効果

踏切待ちの解消によるCO₂・NO_xの低減



日吉踏切 現在



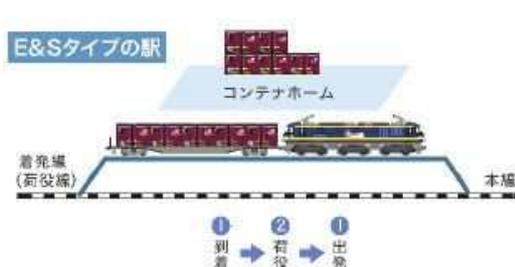
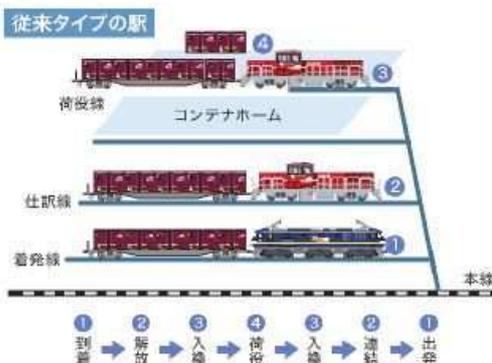
第一間踏切 現在



第二間踏切 現在

効率的な貨物輸送の促進

- ・鉄道貨物で1トンの荷物を1km運ぶCO₂の排出量: 営業用トラックの約13分の1、船舶の約半分
- ・効率的な貨物ターミナル(E&Sタイプ)への転換



出典: JR貨物2021事業CSR

16

【今後の事業の進捗見込み】

- ・ 貨物駅移転先用地取得が完了し、施設整備の前提となる工事（造成・調整池）に着手した。
- ・ 工事着手のために必要な協議や詳細設計を鉄道事業者、沼津市の全面的な協力を得て進めている。
- ・ 高架本体用地の取得を着実に進めている。
- ・ 沼津市による沼津駅周辺総合整備業の関連事業（土地区画整理事業、街路事業）が進められている。

【新たなコスト縮減】

- ・ 鉄道事業者との協議や詳細設計の中で、新技術新工法の活用、施工計画の見直しなどによりコスト縮減を図る。

17

対応方針（案）

沼津駅付近連続立体交差事業



交通環境の改善、市街地の一体化など
中心市街地の課題の解決



- ・ コンパクト＋ネットワークの構築
- ・ ウォーカブルなまちづくり



持続可能な県東部の拠点都市の形成

事業を継続する

18